

氏名 守 都 義 明

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 1506 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和59年 9 月30日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）

学 位 論 文 題 目 不安定股関節児の Joint Laxity と臍帯コラーゲン量との関連についての研究

論 文 審 査 委 員 教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 産賀敏彦

学位論文内容の要旨

昭和55年11月よりの1年間に岡山大学関連5病院産科で出生した新生児4,824例を対象とし、先天股脱の発生状況について疫学的調査を行い、また先天股脱児の臍帯コラーゲン量を正常児と比較検討した。疫学的には新生児 click 発生頻度、不安定股関節発生頻度、性差等につき、諸家の報告とほぼ一致する結果が得られた。誘発手技を用いた click 陽性群は、加療を要する先天股脱症例と一致しないので、Ortolani の手技による新生児検診を行なった。臍帯コラーゲン量の検討で新生児 click 陽性群、late diagnosis group、正常児よりなる対照群間に有意差が認められなかった。著者の結果は先天股脱の発生原因をホルモン代謝異常に求める説に対立するものと判断される。さらに臍帯コラーゲン量に影響する可能性がある9因子について、統計学的に比較検討した。臍帯の長短、新生児体重の軽重各群間に有意差が見られた。先天股脱児にみられる joint laxity を生化学的に検討する材料として臍帯は問題点の多いことが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は先天性股関節脱臼と、臍帯コラーゲン量との関連を追求する目的をもって新生児を対象として行なった臨床研究であるが、その結果本症にみられる joint laxity の検討に関して重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。